



学校だより



令和6年1月31日
2月号
調布市立第一小学校
校長 樋川 宣登志

<http://www.chofu-schools.jp/chofu-1sho> TEL042(481)7636

「食」を通して

副校長 山崎 清香

寒さの厳しい日が続き、本格的な冬の到来を迎えています。「子供は風の子元気な子」と言われますが、厳しい寒さの中でも校庭で元気に遊ぶ姿が見られます。

1月24日から1週間、全国学校給食週間でした。本校栄養士が、その取組として、普段は決して立ち入ることができない第一小学校の調理室で、実際に給食を作っている様子を撮影しました。3年生のあるクラスでその動画を見たときの子どもたちの反応です。

「鍋がお風呂にみたいに大きい!」

「パンを生地からこねてる!?大変そう・・・。」

子どもたちは、今まで見たこともない大きなしゃもじやオーブンに目を丸くし、約800人分の給食を朝早くから8人ほどで作っている現実に驚いていました。

さらに、調理員からのメッセージを聞いた子どもたちは、「嫌いな野菜があると残してしまうけど、これから残さないで食べたい。」「給食が食べられることは当たり前と思わないで、農家の方や給食を作ってくれる方に感謝の気持ちを伝えたい。」「私たちの生活を支えてくれていることがうれしい。」などという感想をもちました。

さて、本校の給食は、子どもたちや保護者の方々に食に対しての理解を深めてもらうため、行事食や郷土料理を献立に多く取り入れています。地元調布の農家さんにも協力してもらい、1学期には、2年生が枝豆の鞘取り、1年生がトウモロコシの皮むきを行う体験をし、食に対する興味を高めています。さらには、読書旬間とコラボし、絵本に登場する料理を「ブックメニュー」として提供するなど、まさに給食は「生きた教材」となっています。

「食育」という言葉が盛んに使われるようになった現在、「食」は単に栄養の教育だけではなく、生きる力を育む役割を担っています。「食」は、心や知能も形成させます。誰かのために食事を作り共に味わうという日々の繰り返しの中で、心の絆が生まれ、子どもは心を安定させ、成長していくともいえます。また、人としてのマナーを身に付けるのも「食」の役割といえるでしょう。調理加工された食材がいつでも手軽に入るようになった現在だからこそ、食べ物や人への感謝の気持ちをもち、「食」の意味を伝えていくことは、私たち大人の責任ともいえます。

「今日の給食何だった?」

ぜひ、ご家庭でも話題にしてください。

2月の生活目標 自分の体を大切にしよう

自分が健康でいられることは普段はあまり考えませんが、とても素晴らしいことです。だからこそ自分の体をよく知り、大切にしてほしいと思います。インフルエンザなどいろいろな感染症に罹患している児童が出ています。手洗いをこまめにするなど感染症対策をしっかりと行いましょう。また、温度に合わせて衣服の調節ができるようにして、毎日元気に過ごせるようにしましょう。